

**授業概要**

国際化のなかで、ひとの「こころ」を文化との関係でとらえることの重要性が認識されている。異文化間心理学は、文化とひとの「こころ」に着目する心理学の分野であり、文化・社会・歴史的要因が人のこころの形成に与える影響を体系的に把握しようとする。ここでは、異文化（間）コミュニケーション、文化とこころの発達、文化と教育、さらに異文化間カウンセリングや異文化間トレーニング、そして異文化理解に関する諸理論について理解できるように、具体的事例をとりあげながら講義をする。また、文化的背景の異なる人々が互いに平和に生活するための糸口についても提示する。

**授業計画**

第 1 回	ガイダンス（授業概要、講義の進め方、評価方法、注意事項など）
第 2 回	異文化間心理学・文化心理学・土着（固有文化）心理学とは
第 3 回	異文化間心理学の具体例 1 中国人のこころ
第 4 回	異文化間心理学の具体例 2 韓国人のこころ
第 5 回	異文化間コミュニケーション 1 異文化間コミュニケーションとは
第 6 回	異文化間コミュニケーション 2 コミュニケーション・スタイルの国際比較（日本とアジア）
第 7 回	異文化間コミュニケーション 3 コミュニケーション・スタイルの国際比較（日本と欧米）
第 8 回	文化と発達 1 文化とこころの発達の諸理論—生涯発達の視点から
第 9 回	文化と発達 2 文化とこころの発達の課題
第 10 回	文化と発達 3 文化とこころの発達—私たちはいつ日本人になるか
第 11 回	文化と教育 日米比較を中心に
第 12 回	異文化間カウンセリングと異文化間トレーニング
第 13 回	異文化理解 1 偏見と差別
第 14 回	異文化理解 2 文化相対主義と自文化中心主義
第 15 回	異文化理解 3 グローバル化と平和（イスラエル人とパレスチナ人の事例）
第 16 回	期末試験

※授業の際に、異文化背景をもつ人を招いたり、学外研修をおこなう場合もある。

**到達目標**

- ・「異文化間心理学Ⅱ」を合わせて受講することによって、文化・社会・歴史がひとのこころの形成に及ぼす影響について把握し、異文化間心理学についての基礎知識を習得する。
- ・国際的視野にたって、文化・社会・歴史とひとのこころとの関係を理解できるようにする。
- ・増加する在日外国人等への理解（「異文化理解」「共生」）の重要性・必要性を認識できるようにする。

**履修上の注意**

- ・国際情勢、異なる文化、および異なる文化的背景をもつ人々について興味があることが望ましい。
- ・「異文化間心理学Ⅱ」を履修していることが望ましい。
- ・テーマによっては数人での簡単なディスカッションを一部取り入れる場合もある。

**予習・復習**

- ・授業の最後に予習のための課題を出す場合がある。
- ・講義内容をより深く理解するために必ず復習をしてほしい。

**評価方法**

授業態度（10%）、授業中の提出物（20%）および試験（70%）。（詳細については、第 1 回のガイダンスで説明する。）

**テキスト**

必要に応じて資料等を配布する予定であるが、第 1 回のガイダンスで説明する。